

MHI の名古屋航空宇宙システム製作所の前村考志技師長が資料 30-1-1(H- A 打上げ結果)を説明した後、続いて JAXA の井上一理事が資料 30-1-3(SELENE の運用状況)を説明した。その後、河内山治朗理事も加わり、下記のような質疑応答があった。(打上げ以降、順調に軌道調整、太陽電池パドルの展開、通信アンテナの展開が行なわれている。)

松尾:大変結構だと思います。翌日、天気どうでした。

JAXA 河内山:風が強い一日でした。打てないほどではない、サントス(?)では 10 から 14、まあ、ギリギリですね。かなり天気予報は当たってましたね。

松尾:我々大変運が良かったと云う事を確認したかっただけです。翌日もっと悪かったと言われるともっと嬉しいんです。何か御座いますか。

青江:今回、打上げ執行と安全管理というものを分担関係でやってやった、一番最初の打上げになるんですね。それで、其の打上げ執行と安全管理と云う事を二者で分けた、其の体制ということはどういう風でしたか。特に何か、こー、直した方が良かったか、そう云った風なことはありますか。

MHI 前村:いえ、特に問題になったようなことは、私の記憶では無いので、スムーズに行ったと私どもの方は思っております。ただ、此れまで JAXA さんがやられてた事は、非常に大変な事だなと云うのは、身を以って感じました。

青江:安全管理担当の方には何か無いですか。

JAXA 河内山:今、執行側の前村さん言われた通りで、一所懸命

やって頂いたので、非常に上手く行ってたと。ただ、もっと良くする為には、今までやってた経験がありますので、一緒になって良くして行きたいと思います。もっと良くするって云う観点では有ります。

池上:今の処でハンカク(?)するんですけど、恐らく前村さん一番ホッとしておられるんじゃないかという風に思うんですが、今回、マスコミ等を含めて、三菱重工さんが謂わば舞台に載った訳ですよ。その辺のインパクトと言うか、何か、其れは御座いますか。今迄、社長の顔は全然見えなかった。

MHI 前村:あの、インパクトと申しますか、社長も成功した場合は当然出るし、万が一失敗した場合も記者会見に出るというような危機管理マニュアルを作りまして、私どもも色々マスコミ対応の訓練を受けて臨みました。一寸お答えになったかどうか疑問ですけども。

池上:矢張り、会社の方の技術者も今回特に緊張したと云う事は有ったんですか。

MHI 前村:はい、今迄ロケットに注力して居れば良かったんですけども、企画・渉外・広報そう云った部隊約 40 名追加しまして派遣しましたが、そちらも私気を使わないといけない立場だったので、一寸ロケットに対しては手薄だったかなと云うのはありますけれど。

松尾:私もホッとしております。念のため。

青江:今までと比べて三菱重工が目の色が変わった訳ではないですよ。

MHI 前村:いえ、目の色は変わってました。社長、会長以下ですね。

青江:ハッハッハ。

松尾:答え方難しいですよ¹。

MHI 前村:まあ、あのー、ロケットを成功させるという意味では、変わってはないと思いますけども。

池上:一寸お話違いますが、多分此れまで JAXA の大変だったところを、色々ご理解できたという話だったんですけども、やっぱり、そうでは御座いません。(?)今後、たやすかった(?)という言い方を少し変ってくる訳です。

MHI 前村:ただ、河内山さんも3機位ですかね、責任者を務められたたと思うんですけど、矢張り、ゴー、ノーゴーの判断は非常に緊張します。特に、此处最近は天候が良くないものですから、当日も色々議論をしたんですけども、矢張り、そう云った判断を掛けた場合、其の後なんか有ってはどうかって云う様な、立場だったんだなと云う事を身をもって感じました。

¹ 正しく、拙い答え方をしてしまったので、一言発せられたのであろう。兎角、民営化すれば改善されると思ひ込む方が多いので、不用意な発言は避ける必要がある。そもそも、「目の色が変わる。」との表現は、悪い印象を伴ったものであるから、用語を変えたほうが良かった。五代さんが宇宙開発委員をなさっていたとき、打上げ主任として発射を迎えるときの緊張感についてお話されたことがある。「何度やっても慣れることが出来ない。」と表現されたように記憶している。

森尾:一寸教えて頂きたいんですが、打上げが非常に順調で予定通りだったと云う事は、燃料を余分に使わずに済んだという風に考えると、確か、SELENE の設計寿命が尽きた後、若し燃料が余ったら、高度 100 キロをもっと低くして、もっと細かく、リスクはあっても、もっとデータを取るような可能性があると云う事を聞いたんですけども、今回の打上げ、非常に順調だったって事は、そう云う可能性が非常に大きくなったという期待をして良いんですか²。

JAXA 井上:未だこれから、月の軌道投入等々、色々御座いますので、まあ、確かに打上げに関しては仰っている様な事で、大変嬉しいことで、最後にどういう風にして行くかは、未だこれから考えるところです。

青江:此れ一寸細かい事なんですけど、月周回軌道への投入マニユールリングに使うスラスタと、今迄使ってる、ペンシル(?)系に使ったスラスタ、此れは、同じものですか。

JAXA 井上:キョウナギ(?)には同じものです。

青江:アオブルイ(?)と言うのか、十分亘って無いと云うことなのかどうか良く分かんないんですけども、過去の探査の焼き直しの様なものなのかと言う認識が、未だ有るとでも言いましょうか、そんな程度のものではないかと思つてるメディアもおると、いうことで愕然としたと言いましょうか、不幸な事だナアと、思っておるんですよ。ユウリョクシャノシカク(?)テ

² ロケット搭載燃料と、衛星搭載燃料を、混同させてしまった質問であるが、井上理事はさりげなく回答している。

セテンソウカイ(?) そうであるかごときことを書いてあるんですよね。 どうしたら本当にこう云う事をやるんだと云う処を多くの人に解って貰えるんですかね。 という社説を読みましてね。

JAXA 井上: どうお答えしていいか良く分かりません。「焼き直し」と仰った意味がそもそも良く分かりません。

青江: こう書いてありました。「焼き直しなら 550 億使う意味が無い。」と。 焼き直しの探査なら。

JAXA 井上: 此の規模の月の探査が行われるのは、初めてで御座います。

青江: だから「焼き直し」ではない訳ですね。 明確に「焼き直し」なんかじゃ全然無いわけですよね。 そう云ったことが分かって貰えてないという実情、 そんな程度の事さえ解って貰えてない。 どっちが悪いんですかね。

JAXA 井上: 我々の方でその辺のご説明が、 若し足りないところがあれば、 確かに反省しなきゃいけないと思います。

青江: どっちが悪いのかな。 向こうが悪いのかなあ。

松尾: 私は、 中々、 どっちも悪いとは思えないけれどね。 此の件は永遠の課題みたいな処がありますけど。 まあ、「焼き直しなら 550 億円掛ける意味が無い。」と言うのは、「550 億円掛けたんだから焼き直しでは無いんでしょう。」と云う念押しとも取れないこともない。

青江: そうなんですよ³。 ちゃんと解って貰えさえすれば、 あんな

ことは書かれる筈がない。

池上: この後は、 リスクというのはどう云う処にあるんですか。 未だ本当に観測まで行ってない訳ですよ。

JAXA 井上: はい、 余り確率が低いなんてものは有ると思いませんけれども、 矢張り、 月の軌道へ投入するのが一つの山になります。 それから、 徐々に子衛星を切り離し、 観測装置を立ち上げて参りますので、 全部で十幾つの装置を問題なく立ち上げて行くと云うのは、 矢張り、 其れは其れなりにチャンスとやらないと問題を生じ得る事です。

松尾: どうも有難う御座いました。 楽しみにしております。

³ 同意はしたが、前に発言したと何も変わっていない。